

保育事業の量の見込みと確保方策について

鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～鎌倉っ子をみんなで育てよう！～（以下「本プラン」という。）第5章 4 幼児期の教育・保育事業の量の見込み（事業のニーズ量）と確保方策（事業の提供体制）のうち、保育事業に係る平成27年度の実績報告及び今後の量の見込みの見直しについて報告します。

1 概要

本市の教育・保育事業の量の見込みと確保方策については、平成25年度に実施したニーズ調査に基づき、平成27年3月に本プランにおいて策定しました。

しかし、策定時に算出した保育事業の量の見込みと、平成27年度及び平成28年度の実際の保育事業の利用申込件数に乖離が生じているため、平成27年度の本プランの実績を報告すると共に、計画年度内の今後の保育事業のニーズ量について見直しを行おうとするものです。

平成28年3月15日に開催した平成27年度第2回鎌倉市子ども・子育て会議では、保育事業の量の見込み及び確保方策の内容について、年度途中のニーズの伸び率をどう評価するのか、また、確保方策は施設定員に基づく数値で評価するのか、実際の受入状況に基づく数値で評価するのか等の疑義に対し、統一した評価方法が国及び県から示されていなかったことから、評価は今後示される国又は県の方針を踏まえて検討する旨の報告を行いました。

しかし、平成28年7月現在、評価の考え方はいまだ示されておらず、また、市町村計画の評価について近隣自治体に確認したところ、独自の評価を行っている、又はまだ評価を行っていない等ばらつきが生じている状況です。

市町村計画における教育・保育事業の量の見込みについては、平成26年7月2日に内閣府から発出された「教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備並びに子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て支援事業の円滑な実施を確保するための基本的な指針」において、量の見込みについて乖離が生じている場合には、中間年を目安に必要なに応じて計画の見直しをすることとしています。そこで、本市では、今後実態のニーズ量に即した確保方策を進めていくため、評価方法の整理と併せ、ニーズ量の見直しを行ったものです。

なお、教育事業については、平成27年度第2回鎌倉市子ども・子育て会議で報告を行ったとおり、計画年度内においてニーズ量の見込みを上回る確保の体制が取られていることから、今回の見直しは行いません。

2 今後の保育事業の量の見込みについて

今後の量の見込みの考え方については、本プランの計画期間の最終年度である平成 31 年度を目標とし、また、ニーズ量の見込みについては、年度当初ではなく、年度途中の伸び率を含めた年度全体のニーズを当該年度のニーズ量とし、次のとおり行いました。

- (1) 平成 27 年度の計画上の量の見込みと、平成 27 年度当初の保育ニーズの乖離率を算出
- (2) 平成 27 年度当初の保育ニーズと、平成 27 年度末の保育ニーズを比較し、年度途中の伸び率を算出
- (3) 平成 28 年度の計画上の量の見込みと、平成 28 年度当初の保育ニーズの乖離率を算出
- (4) (1)及び(3)の乖離率の平均を平成 31 年度の計画上の量の見込みに乗じ、平成 31 年度の当初のニーズ量の見込みを算出
- (5) (4)で算出した平成 31 年度当初のニーズ量の見込みに(2)で算出した年度途中の伸び率を乗じ、平成 31 年度全体のニーズ量を算出

3 今後の保育ニーズについて

- (1) 平成 27 年度の計画上の量の見込みと、平成 27 年度当初の保育ニーズの乖離率

本プランにおける平成 27 年度の計画上の量の見込みと、平成 27 年度当初の保育ニーズ（平成 27 年 4 月 1 日時点における保育認定児童数（2号・3号）の合計数）については、表 1 のとおりです。また、地域別は表 2 のとおりです。量の見込みと実際の保育ニーズを比較すると、3 歳以上児においては実際の保育ニーズが量の見込みを 55 人上回り、1・2 歳児及び 0 歳児においては、それぞれ実際の量が量の見込みを 104 人及び 41 人下回るという結果となりました。この乖離率は全市でみると、3 歳以上児 104%、1・2 歳児 90%、0 歳児 84%となっています。

地域別にみると、3 歳以上児については腰越地域のみ、1・2 歳児については全ての地域で、0 歳児については大船地域を除く全ての地域で、実際の保育ニーズが量の見込みを下回りました。

表 1 平成 27 年度の計画上の量の見込みと、平成 27 年度当初の保育ニーズ

全市	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②－①	乖離率 α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	1,318	1,373	55	104%
3号認定	1・2歳児	904	▲ 104	90%
	0歳児	211	▲ 41	84%
合計	2,578	2,488		

表2 平成27年度の計画上の量の見込みと、平成27年度当初の保育ニーズ（地域別）

鎌倉地域	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②-①	乖離率α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	315	338	23	107%
3号認定	1・2歳児	257	▲16	94%
	0歳児	72	▲23	68%
合計	644	628		

腰越地域	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②-①	乖離率α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	143	130	▲13	91%
3号認定	1・2歳児	96	▲13	86%
	0歳児	16	▲2	88%
合計	255	227		

深沢地域	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②-①	乖離率α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	295	308	13	104%
3号認定	1・2歳児	225	▲49	78%
	0歳児	49	▲7	86%
合計	569	526		

大船地域	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②-①	乖離率α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	389	414	25	106%
3号認定	1・2歳児	306	▲14	95%
	0歳児	76	5	107%
合計	771	787		

玉縄地域	保育事業のニーズ量			
	量の見込み①	保育ニーズ② (4/1時点)	差②-①	乖離率α (②÷①)
2号認定（3歳以上児）	176	183	7	104%
3号認定	1・2歳児	124	▲12	90%
	0歳児	39	▲14	64%
合計	339	320		

(2) 平成27年度当初の保育ニーズと、平成27年度末の保育ニーズの比較による年度中の伸び率

平成27年4月1日時点（年度当初）の保育ニーズと、平成28年3月31日時点（年度末）の保育ニーズについては、表3のとおりです。また、地域別については表4のとおりです。年度当初の保育ニーズと年度末の保育ニーズを比較すると、3歳以上児については49人、1・2歳児については88人、0歳児については229人増加しています。この伸び率は全市でみると、3歳以上児104%、1・2歳児110%、0歳児209%となっています。

0歳児について、他の年齢に比べて増加人数が多く高い伸び率となっていますが、これは、年度途中の出生や年度当初に児童の月齢が保育所等の利用月齢に達しておらず、利用申込が年度途中となる場合があること、また、入所申込が1・2歳児クラスに集中するため、1・2歳児より申込者数が少ない0歳児クラスの段階で申し込む場合があることなどが主な要因と考えられます。

表3 平成27年度当初から年度末までの保育ニーズの伸び

全市	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	1,373	1,422	49	104%	
3号認定	1・2歳児	904	992	88	110%
	0歳児	211	440	229	209%
合計	2,488	2,854			

表4 平成27年度当初から年度末までの保育ニーズの伸び(地域別)

鎌倉地域	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	338	353	15	104%	
3号認定	1・2歳児	241	267	26	111%
	0歳児	49	101	52	206%
合計	628	721			

腰越地域	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	130	137	7	105%	
3号認定	1・2歳児	83	97	14	117%
	0歳児	14	37	23	264%
合計	227	271			

深沢地域	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	308	320	12	104%	
3号認定	1・2歳児	176	188	12	107%
	0歳児	42	95	53	226%
合計	526	603			

大船地域	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	414	424	10	102%	
3号認定	1・2歳児	292	315	23	108%
	0歳児	81	153	72	189%
合計	787	892			

玉縄地域	保育事業のニーズ量				
	保育ニーズ② (4/1時点)	保育ニーズ③ (3/31時点)	差③-②	伸び率X (③÷②)	
2号認定(3歳以上児)	183	188	5	103%	
3号認定	1・2歳児	112	125	13	112%
	0歳児	25	54	29	216%
合計	320	367			

(3) 平成28年度の計画上の量の見込みと、平成28年度当初の保育ニーズの乖離率を算出
本プランにおける平成28年度の計画上の量の見込みと、平成28年度当初の保育ニーズ
(平成28年4月1日時点における保育認定児童数(2号・3号)の合計数)については、
表5のとおりです。また、地域別は表6のとおりです。

量の見込みと実際の保育ニーズを比較すると、3歳以上児及び1・2歳児においては実
際の量が量の見込みを176人及び61人上回り、0歳児においては、実際の量が量の見
込みを6人下回るという結果となりました。この乖離率は全市で見ると、3歳以上児113%、
1・2歳児106%、0歳児98%となっています。

地域別にみると、3歳以上児については腰越地域を除く地域で量の見込みを上回り、
1・2歳児については深沢地域のみ、0歳児については鎌倉・深沢・玉縄地域で、実際の
保育ニーズが量の見込みを下回りました。

表5 平成28年度の計画上の量の見込みと、平成28年度当初の保育ニーズ

全市		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		1,310	1,486	176	113%
3号認定	1・2歳児	947	1,008	61	106%
	0歳児	242	236	▲6	98%
合計		2,499	2,730		

表6 平成28年度の計画上の量の見込みと、平成28年度当初の保育ニーズ(地域別)

鎌倉地域		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		316	383	67	121%
3号認定	1・2歳児	230	254	24	110%
	0歳児	68	64	▲4	94%
合計		614	701		

腰越地域		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		154	154	0	100%
3号認定	1・2歳児	86	96	10	112%
	0歳児	16	19	3	119%
合計		256	269		

深沢地域		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		287	299	12	104%
3号認定	1・2歳児	217	202	▲15	93%
	0歳児	47	42	▲5	89%
合計		551	543		

大船地域		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		388	465	77	120%
3号認定	1・2歳児	299	329	30	110%
	0歳児	74	78	4	105%
合計		761	872		

玉縄地域		保育事業のニーズ量			
		量の見込み④	保育ニーズ⑤ (4/1時点)	差⑤-④	乖離率β (⑤÷④)
2号認定(3歳以上児)		165	185	20	112%
3号認定	1・2歳児	115	127	12	110%
	0歳児	37	33	▲4	89%
合計		317	345		

(4) 地域別の平均乖離率を平成31年度の計画上の量の見込みに乗じた場合の平成31年度当初のニーズ量の見込み

平成31年度の量の見込みを再算出するために、平成27年度及び平成28年度の計画上の量の見込みと実際の保育ニーズの乖離率から、地域別の平均乖離率を算出しました。算出した結果については、表7のとおりです。また、その平均乖離率を、本プランに記載している平成31年度の量の見込みに乗じることで、平成31年度の量の見込みを再算出しました。この結果については表9のとおりであり、各地域の積み上げを行った全市のものが表8のとおりです。3歳以上児については1,276人、1・2歳児については834人、0歳児については198人の見込みとなりました。

表7 平成27年度及び平成28年度の平均乖離率（地域別）

鎌倉地域		保育事業のニーズ量		
		乖離率(α)	乖離率(β)	平均乖離率(γ)
2号認定（3歳以上児）		107%	121%	114%
3号認定	1・2歳児	94%	110%	102%
	0歳児	68%	94%	81%

腰越地域		保育事業のニーズ量		
		乖離率(α)	乖離率(β)	平均乖離率(γ)
2号認定（3歳以上児）		91%	100%	96%
3号認定	1・2歳児	86%	112%	99%
	0歳児	88%	119%	104%

深沢地域		保育事業のニーズ量		
		乖離率(α)	乖離率(β)	平均乖離率(γ)
2号認定（3歳以上児）		104%	104%	104%
3号認定	1・2歳児	78%	93%	86%
	0歳児	86%	89%	88%

大船地域		保育事業のニーズ量		
		乖離率(α)	乖離率(β)	平均乖離率(γ)
2号認定（3歳以上児）		106%	120%	113%
3号認定	1・2歳児	95%	110%	103%
	0歳児	107%	105%	106%

玉縄地域		保育事業のニーズ量		
		乖離率(α)	乖離率(β)	平均乖離率(γ)
2号認定（3歳以上児）		104%	112%	108%
3号認定	1・2歳児	90%	110%	100%
	0歳児	64%	89%	77%

表8 平成31年度の計画上の量の見込みと再算出した量の見込み

全市		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥ (計画)	量の見込み⑦ (再算出)	差⑦-⑥
2号認定（3歳以上児）		1,174	1,276	102 ↗
3号認定	1・2歳児	850	834	▲16 ↘
	0歳児	217	198	▲19 ↘
合計		2,241	2,308	

表9 平成31年度の計画上の量の見込みと再算出した平成31年度の量の見込み (地域別)

鎌倉地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	平均乖離率 γ	量の見込み⑦ (⑥× γ)
2号認定(3歳以上児)		270	114%	308
3号認定	1・2歳児	199	102%	203
	0歳児	59	81%	48

腰越地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	平均乖離率 γ	量の見込み⑦ (⑥× γ)
2号認定(3歳以上児)		136	96%	131
3号認定	1・2歳児	75	99%	74
	0歳児	14	104%	15

深沢地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	平均乖離率 γ	量の見込み⑦ (⑥× γ)
2号認定(3歳以上児)		253	104%	263
3号認定	1・2歳児	193	86%	166
	0歳児	42	88%	37

大船地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	平均乖離率 γ	量の見込み⑦ (⑥× γ)
2号認定(3歳以上児)		373	113%	421
3号認定	1・2歳児	283	103%	291
	0歳児	69	106%	73

玉縄地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	平均乖離率 γ	量の見込み⑦ (⑥× γ)
2号認定(3歳以上児)		142	108%	153
3号認定	1・2歳児	100	100%	100
	0歳児	33	77%	25

(5) 再算出した平成31年度当初のニーズの量の見込みに、平成27年度途中の伸び率を乗じて算出した平成31年度全体の量の見込み

計画最終年度である平成31年度に必要な確保体制の整備の数値を算出するため、(4)で再算出した量の見込みに、(2)で算出した年度途中の伸び率を反映させました。なお、0歳児については、年度途中の申込みに1歳での入所の先取り等など、本来的には1歳児の保育ニーズとして含まれる方が一定数いると考えられ、0歳児のニーズにその数を含むとニーズが過剰に算出されることから、補正を行います。補正の内容は、本プラン策定の際に行った平成25年度のニーズ調査の設問「1歳になったとき必ず利用できる事業があれば1歳になるまで育休を延長するか」を活用します。

この設問では、83.1%の方が1歳まで育休を延長したい意向を示していることから、平成27年度における0歳児の保育ニーズの伸び数から83.1%分を除いたものを、年度途中の保育ニーズの伸びとしました。0歳児の補正後の伸び率については表10のとおりです。

算出した平成31年度の年度全体の量の見込みについて各地域の積上げを行ったものは、表11のとおりです。3歳以上児については、1,319人、1・2歳児については916人、0歳児については235人が平成31年度全体の量の見込みとして算出されました。なお、5地域別の数値については表12のとおりです。

表10 補正後の0歳児のニーズの伸び率

0歳児	保育ニーズ ②	保育ニーズ ③	伸び数⑧ (③-②)	補正数⑨ (⑧×83.1%)	補正後の量⑩ (③-⑨)	伸び率X' (⑩÷②)
鎌倉地域	49	101	52	43	58	118%
腰越地域	14	37	23	19	18	129%
深沢地域	42	95	53	44	51	121%
大船地域	81	153	72	60	93	115%
玉縄地域	25	54	29	24	30	120%

表 11 平成 31 年度の再算出した量の見込みと、平成 31 年度全体の量の見込み

全市		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	量の見込み⑩	差⑩－⑦
2号認定（3歳以上児）		1,276	1,319	43
3号認定	1・2歳児	834	916	82
	0歳児	198	235	37
合計		2,308	2,470	

表 12 平成 31 年度の再算出した量の見込みと、平成 31 年度全体の量の見込み（地域別）

鎌倉地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	伸び率X	量の見込み⑩ (⑦×X)
2号認定（3歳以上児）		308	104%	320
3号認定	1・2歳児	203	111%	225
	0歳児	48	118%	57

腰越地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	伸び率X	量の見込み⑩ (⑦×X)
2号認定（3歳以上児）		131	105%	138
3号認定	1・2歳児	74	117%	87
	0歳児	15	128%	19

深沢地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	伸び率X	量の見込み⑩ (⑦×X)
2号認定（3歳以上児）		263	104%	274
3号認定	1・2歳児	166	107%	178
	0歳児	37	121%	45

大船地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	伸び率X	量の見込み⑩ (⑦×X)
2号認定（3歳以上児）		421	102%	429
3号認定	1・2歳児	291	108%	314
	0歳児	73	115%	84

玉縄地域		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑦	伸び率X	量の見込み⑩ (⑦×X)
2号認定（3歳以上児）		153	103%	158
3号認定	1・2歳児	100	112%	112
	0歳児	25	120%	30

(6) (参考) 計画上の平成 31 年度の量の見込みと、再算出した平成 31 年度全体の量の見込みの比較について

平成 27 年度及び平成 28 年度の実態から再算出した平成 31 年度の量の見込みが、計画上の量の見込みと比較したものが表 13 です。3歳以上児については 145 人、1・2歳児については 66 人、0歳児については 18 人、計画より多い見込みとなりました。

表 13 計画上の平成 31 年度の量の見込みと、再算出した平成 31 年度全体の量の見込み

全市		保育事業のニーズ量		
		量の見込み⑥	量の見込み⑩	差⑩－⑥
2号認定（3歳以上児）		1,174	1,319	145 ↗
3号認定	1・2歳児	850	916	66 ↗
	0歳児	217	235	18 ↗
合計		2,241	2,470	

4 確保方策について

(1) 再算出した量の見込みと保育の受け入れ状況の比較

3の(5)で算出した平成31年度全体の量の見込みに対して、平成28年4月1日時点の本市における受け入れ状況を比較し、今後必要な受入数の見込みを算出しました。全市は表14、地域別は表15のとおりです。鎌倉・腰越地域を中心に不足が生じ、全体の不足数を見てみると、3歳以上児で58人、1・2歳児で93人、0歳児で22人となっています。

表14 平成31年度全体の量の見込みと平成28年4月1日時点実入所数

全市		保育事業（人）		
		量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	差⑫-⑪
2号認定（3歳以上児）		1,319	1,385	66 ↗
3号認定	1・2歳児	916	859	▲57 ↘
	0歳児	235	236	1 ↗
合計		2,470	2,480	

表15 平成31年度全体の量の見込みと平成28年4月1日時点実入所数（地域別）

鎌倉地域	保育事業（人）			
	量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	他地域流動 ⑬	差⑫+⑬-⑪
2号認定（3歳以上児）	320	234	65	▲21 ↘
3号認定	1・2歳児	225	143	▲45 ↘
	0歳児	57	33	▲14 ↘
合計	602	410	112	

腰越地域	保育事業（人）			
	量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	他地域流動 ⑬	差⑫+⑬-⑪
2号認定（3歳以上児）	138	73	28	▲37 ↘
3号認定	1・2歳児	87	46	▲24 ↘
	0歳児	19	10	▲4 ↘
合計	244	129	50	

深沢地域	保育事業（人）				
	量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	他地域流動 ⑬	差⑫+⑬-⑪	
2号認定（3歳以上児）	274	404	▲67	63 ↗	
3号認定	1・2歳児	178	247	▲33	36 ↗
	0歳児	45	70	▲8	17 ↗
合計	497	721	▲108		

大船地域	保育事業（人）				
	量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	他地域流動 ⑬	差⑫+⑬-⑪	
2号認定（3歳以上児）	429	494	▲15	50 ↗	
3号認定	1・2歳児	314	312	▲11	▲13 ↘
	0歳児	84	85	▲5	▲4 ↘
合計	827	891	▲31		

玉縄地域	保育事業（人）				
	量の見込み ⑪	H28実入所数 ⑫	他地域流動 ⑬	差⑫+⑬-⑪	
2号認定（3歳以上児）	158	180	▲11	11 ↗	
3号認定	1・2歳児	112	111	▲10	▲11 ↘
	0歳児	30	38	2	10 ↗
合計	300	329	▲19		

全市（不足分）	
2号認定（3歳以上児）	▲58
3号認定	1・2歳児 ▲93
	0歳児 ▲22
合計	▲173

(2) 今後の施設整備について

(1)の表14において、平成28年4月1日現在の受け入れ状況から、各地域の今後必要な受入数を算出しました。今後の本市における確保方策については、待機児童が最も多い鎌倉地域の重点的な整備を進めていく予定となっています。

今後の整備予定については、鎌倉地域において、由比ガ浜こどもセンターの平成29年

度中の開所に向けて事務を進めているほか、佐助一丁目にある横浜地方法務局鎌倉出張所跡地の取得・活用の手続きを現在進めており、詳細は未定ですが、平成 31 年度の開所を目標に事務を進めます。また、現在大船地域に所在する聖アンナの園が園舎建替えに伴い 10 名の定員増を平成 28 年度に行います。

5 まとめ

保育事業の計画上の量の見込みについて、平成 27 年度及び平成 28 年度の 4 月 1 日時点の保育ニーズとの乖離がみられました。量の見込みと確保方策の評価については、国及び県からの方針が示されない中、本市では、今後実態のニーズ量に即した確保方策を進めていくため、評価方法の整理と併せ、ニーズ量の見直しを行いました。

評価の方法としては、計画の最終年度である平成 31 年度を目標とし、量の見込みについては年度全体の保育ニーズで捉えなおし、確保方策については各施設の受入状況に基づいたものとして整理しました。

再算出した平成 31 年度の量の見込みと、平成 28 年 4 月 1 日現在の受入状況（定員を超えた受入含む）を比較すると、鎌倉・腰越地域を中心に不足が生じており、今後も引き続き受皿の整備が必要となっている状況です。今後は、待機児童が多い鎌倉地域を中心に確保体制の整備を進めていく予定となっています。

また、国及び県から計画の時点修正に係る時期等の方針が示された場合には、今回の見直しに基づき修正を行う予定です。